

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500038		
法人名	有限会社ナチュラルケア中津川		
事業所名	グループホーム恵寿		
所在地	岐阜県中津川市中津川950-25		
自己評価作成日	令和3年8月15日	評価結果市町村受理日	令和3年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500145-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物や庭は入居者様が安心して生活して頂けるように、認知症ケアのノウハウを活かした造りになっています。スタッフには法人独自の研修を行ない、理念である「尊厳のある その人らしい 穏やかな生活」を目標に、入居者様、ご家族様に満足して頂ける様な良いケアを目指し取り組んでいます。また、独自にBPSD認定員を定めて定期的に12項目の分類についてアセスメントを行い、入居者様の症状に合わせた適切な対応方法を検討しています。
新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、面会制限や外出自粛など入居者様やご家族様にご不便をおかけしていますが、オンライン面会を開始するなどコロナ禍でも出来ることを探り、対応できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は小高い丘の上のみにあり、隣には、デイサービスも運営している。市内には、もう1件のグループホームと小規模多機能型居宅介護事業所がある。法人本部は静岡にあるが、常に連携を図り福祉と医療を両輪とした認知症ケアに取り組みながら、職員の資格取得を奨励するなど、人材教育にも力を入れている。管理者は、子育て世代の職員や、職員それぞれの家庭の事情にも配慮した勤務体制でバックアップし、働きやすい職場環境作りに努めている。今年から、科学的介護推進体制加算にも取り組み、社内認定資格のBPSD認定員が毎週アセスメントし、利用者の症状軽減に繋がるよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」を掲げている。新入社員には研修で理念と意味を教え、日頃のケアに活かせるように指導している。また、施設内に掲示して普段から意識するよう働きかけたり、家族宛の通信や推進会議資料にも載せている。	理念を目につきやすい場所に掲げ、常に職員・家族・関係者で共有している。パンフレットや運営推進会議の案内状、通信にも理念を明記している。コロナ禍の今、全員が参集する会議は出来ないが、日々の申し送りや話し合いの中で振り返りながら、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスにより地域で行われる左義長、流しそうめん、防災訓練や恵寿での夏祭りなど中止になったが地域の方々からの野菜の差し入れを頂いている。	現在は、新型コロナウイルス感染予防、感染拡大防止の為、地域行事も中止となっている。住民との従来通りの交流は出来ないが、草刈りや道路清掃等には、地域の一員として参加している。散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、野菜の差し入れ等もあり、日常的な交流は継続できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回夏祭りを地域の方と協力して実施している。準備は運営推進会議や地域の寄り合いで話し合い、出し物の分担ができるようにしている。ボランティアで太鼓の演奏に来て頂いたり、出店を地域の方々の手伝って頂いたりした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防の為、運営推進会議を2ヶ月に1回、ご家族様、区長、民生委員、福祉推進委員、行政へ資料を配布させて頂き、要望・助言等を任意で書いて返送してもらっている。要望、助言等は施設の運営に役立っている。	運営推進会議は書面会議とし、近況報告として利用者状況・行事報告、課題等を記述した文書をメンバーに配布している。意見や提案の返信も受けている。メンバーから新型コロナの対応に対して、励ましのメッセージがあり、職員の励みとなり、意欲向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染予防の為会議等に参加出来ないが市からの重要なメールを確認し内容にそった要請を事業所でも行っていた。	市からは、新型コロナ最新情報、ワクチン接種状況や利用者の米寿・卒寿の確認、相談・報告等があり、連絡を密にしている。事故報告等も、電話やメール、書面等で連絡を取り合いながら、より良い利用者サービスの提供につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠やベッド柵を含めて身体拘束を行っていない。マニュアルを事務所に設置し、スタッフが目を通し、正しい理解が得られるようにしている。定期的に職員研修を行い学びの機会を設けたり、身体的拘束適正化検討委員会を開催し、参加していない職員にも議事録を読んで内容を理解してもらっている。	身体拘束適正化検討委員会があり、定期的に開催し内容を全職員で共有している。また、管理者やケアマネジャーが、どのようなケアが拘束に当たるか、具体的に伝えている。更に、身体拘束についての詳細な資料を全職員に配布し、職員のレポート提出で再確認をしながら、ケアに取り組んでいる。ヒヤリハット事例については、対策を含めて全員で共有し、予防に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を実施したり、外部の研修に参加して職員に意識付けを行っている。又、マニュアルを事務所に設置し、目を通して貰う事で虐待防止についての理解が深まるように働きかけている。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様に後見制度を利用している方がみえ、後見人の方と必要なやり取りをしている。事務所に成年後見制度についてのマニュアルが設置しており、職員がいつでも目を通せるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはご家族や利用者様の希望に添い、入居相談や見学に対応し医療体制についてや、生活のご案内等をお渡しし、安心して契約していただけるように働きかけている。契約には重要事項説明書などを用いて内容や制度の説明を十分に行ない、理解・納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時も含め、利用者様に変わりがある時や、相談・報告がある時には家族に連絡し意向や要望を聞いている。対応スタッフを決めて家族からの連絡を受けやすく、ケアに関して等、必要に応じて内容を職員に伝えている。連絡手段はご家族の都合に配慮し、メールも活用している。	利用者・家族の意見や要望については、対面で聞くことが難しい為、電話連絡時や通信で案内し、要望や問い合わせを受けている。利用者と家族のオンライン面会も実施しているが、利用者が反応し難かったり、家族側のネット環境が整っていない場合もある。家族からは、福祉車輛の使用希望についての問い合わせがある。	現在、オンライン面会を実施し、利用者と家族に喜ばれている。家族のネット環境も様々であり、難しい場合もある為、複数の選択肢から選べる面会方法の工夫に期待したい。また、感染予防対策を徹底した上で、工夫しながらの面会実施にも期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は随時行われる面談や、契約内容更新時に聞き取る機会を設けている。また、月に一度スタッフミーティングを行い、業務担当者から施設に必要な物、修繕、利用者様のケアなどについて聞き入れている。面談の内容は、報告書作成を行い、本部と連携をとっている。	感染予防対策として、研修やミーティング、会議等を中止している。管理者は、職員の意見や提案を日常業務の中で聞いたり、申し送りノートや連絡ノートに記載し検討している。夜間の排泄パット交換についての提案もあり、改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が目標管理シートに目標を記入し、半年毎に目標が達成できたかの見直しを行う事で、向上心を高める働きかけを行っている。又、職員の資格取得時の費用にスキルアップ手当を支給し支援をしている。能力や適正を把握し、スタッフ全員に業務を分担し任せようとしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には各勤務を3回指導力を持つ職員が担当となり業務や介護技術についての指導を行っている。タイムスケジュールの見直し作成をし又、年間を通して研修スケジュールをたて、それに添った研修を行いレポートを出してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会、ケアマネ部会、実務者研修、実践者研修、中津川市や病院などの勉強会に参加し、職員同士の交流・勉強を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずご本人との面談を行い、生活する上での困りごとや心配事、要望などを聞き取るようにしている。傾聴の姿勢を心がけながら世間話などを交えて出来るだけリラックスした状態で話が出る様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にこれまでの経緯や現在困っている事、ご家族の思いや今後の要望などを聞き取り、ケアプランにも活かしている。入居前にはアセスメントシートの記入を依頼し、得た情報を今後に生かせるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の実情や要望をもとに初期のケアプランを作成し、適したサービスが提供出来るようにしている。また、より多くの情報を得るために出来るだけ居宅の担当ケアマネや利用していたサービス先の方から話を聞くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントシートなどから得た情報などからご本人が得意なことや習慣としてやってきたことを入居後の生活にも取り入れ、職員とともに取り組めるように心がけている。本人の日頃の体調に合わせてできる事、出来ない事を見極め行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の相談窓口を明確化し、介護に関する要望や意見を気軽に受けられる体制を整えている。また、通信で生活の様子をお知らせしたり、ケアプラン作成時にご家族の意向や要望を聞き取るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、新型コロナの影響で面会や外出がままならない状況であるが、タブレットを使ったオンライン面会や電話での通話でご家族や知人とお話ししていただくなどの対応をしている。	現在、馴染みの場所への外出や、馴染みの人との面会は難しい状況であるが、工夫をしながら関係を継続できるよう支援計画作りに取り組んでいる。事業所が把握していない利用者の知人からの電話は、礼を失する事のないよう対応し、家族に了解を得てから本人に繋げ、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座席の配置に気を配ったり、会話が難しい方の橋渡しをして利用者様同士がコミュニケーションが取れるように支援している。スタッフが見守りながら自立している入居者様が車椅子の利用者様の支援を行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動先の施設や病院にご本人の情報を伝え、これまで行ってきた支援が途切れないようにしている。色紙に職員のメッセージを書いて渡すこともある。また、ご本人に関する問い合わせがあった際の対応も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の行動や会話、ケアでの関わりの中から本人の思いや希望を聞き取り、職員間で情報を共有してケアに活かせるように努めている。言語的コミュニケーションが困難な方に関しても表情や動作から思いを汲み取り、ケアに反映できるよう努めている。	利用者の思いや意向は、日常生活の中で利用者の動作や表情を見ながら把握したり、個別支援時にさりげなく尋ねている。また、職歴や生活習慣、個々の性格なども考慮しながら、新たに把握した情報を記録に残している。困難な場合は、家族からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や居宅担当ケアマネ、利用していたサービス先からの情報も含め、ご本人の生活歴や環境の情報収集に努めている。入居後もご本人ご家族からの情報を随時把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に得た生活歴や自宅での一日の過ごし方などの情報をもとに、ご本人が快適に生活できるよう配慮している。また、ケア業務予定・チェック表を用い、各利用者様の一日の様子が一目で分かるのでトイレ、入浴、シーツ交換、居室掃除の把握ができています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は6か月毎あるいは状態変化時に見直し作成を行い、その都度本人や家族の意向を聞き取りプランに反映させている。事業所独自のアセスメント支援ツールを使用し、その分析データをもとにニーズやケア方針、BPSDIに対する適切な対応を検討し、介護計画に活かしている。	本人・家族の意見や希望を聞きながら、収集したデータ、個々のBPSDIについて確認しながら介護計画を立案し、家族に伝えている。家族の了解を得てから、介護計画書とし、モニタリングは全職員で行っている。利用者の状態変化に応じて、適切に見直しも行っている。事業所独自のアセスメント支援ツールもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア業務予定・チェック表に一日の様子やケアの注意点、バイタルなどを記録している。また、個別の記録も用意し、特記事項はそちらに記入している。日々の記録は自社開発したシステムを使用し、アセスメント分析が行えるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	口腔衛生の重要性を考慮し、歯科医師・歯科衛生士と連携して口腔ケアを実施している。また、希望される方を対象に歯科往診を利用していただいている。また、訪問理美容サービスも利用している。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1度、市から委託を受けた介護相談員さんが利用者様の話を聞きに見えたり、ボランティアの踊りの披露などあるが今は感染予防の為中止している。施設の周りを散歩したり利用者様の楽しみに繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時にご本人やご家族に選択していただいている。施設の協力医以外へかかる際は施設と家族間で情報共有をし、家族対応で受診していただいている。必要時医師への情報書類を用意する等して円滑に外部での受診が出来るように努めている。	協力医の訪問診察は月1回あり、歯科の訪問診察は希望者のみ利用している。かかりつけ医への受診は、家族に同行を依頼している。急変時には、市民病院の後方支援体制もあり、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面では、利用者様が体調不良や急変した場合、事業所の看護師に相談し指示を受けている。事業所では対応しきれない場合は、看護師がかかりつけ医と連携をとりながら対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーを記入し、情報提示をしている。入院中にはお見舞や電話で状態確認のやりとりをしている。また、退院前には病院に行き入院中の様子や現在の状態確認を行い、必要に応じて福祉用具の準備、ケアプラン作成を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際や終末期には、主治医・施設・ご家族間で協議し、施設で出来ることをご家族に理解して頂いた上で、意向の確認や事業所でのケアの方向性を記載した確認書を使用し話し合いをしている。又、医療的ケアが必要になった場合の為に近隣の施設の受入れ状況もリサーチしている。	契約時に、重度化や終末期に向けた支援について説明している。面会制限についても、家族と確認書を交わしている。利用者の状態変化に応じて、医療処置の有無や看取りについて、家族を交えて話し合いを行っている。看取り後は詳細に記録を残し、全職員でその経験を共有しながら、グリーフケアにも活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡網を作成したり、緊急時の対応マニュアルを備えてある。また、緊急時は管理者や看護師の指示を仰ぐ体制をとっている。事業所では対応できない場合は救急対応するよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の対応は感染予防をして地域の避難所としても活用できるようにし地域の避難所と連携をとり協力し合える体制を整えている。またスタッフの災害に対する意識の強化とガス発電機の使い方講習をガス会社の方を呼び行った。	コロナ禍の今、避難訓練には、消防署と地域住民の参加はないが、火災を想定した通報や避難誘導訓練を、利用者と共に実施し避難時間を計るなど、訓練結果を分析している。地震対策として共用場所には耐震マットを敷いている。備蓄食料が賞味期限切れになることのないよう定期的に点検するよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄介助や入浴介助などの身体介助にはご本人の羞恥心や自尊心にも配慮し、同性介助など個々に合った声かけや介助方法をとるようにしている。プライドの高い方には、排泄の失敗には関与せず、さりげなく替えの下着を渡してご本人に替えていただくようにしている。	利用者一人ひとりの尊厳を守り、誇りを傷つけない対応に努めている。特に、入浴や排泄支援時には、プライバシーに配慮するよう努めている。排泄の失敗があっても、他の利用者や周囲の状況を確認しながら、ケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	週に2~4回程度、数種類の中からおやつや飲み物を選んで頂ける日を設けており、選択する楽しみや喜びを持っていただく機会を設けている。また、入浴のタイミングや着替えの衣類などもご本人の意見を聞くように心がけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の流れはあるものの、特に一日の日課が決められてはならず、利用者様一人ひとりのペースで生活していただいている。入居前にご家族から普段の一日の過ごし方を聞き取っており、入居後の参考にしている。食事、入浴、トイレは本人のペースを優先し時間をずらしたりする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2~3ヶ月に1回美容師が来て散髪をしている。散髪の際には入居者様の好みや希望等を反映した髪型にしている。夜、パジャマに着替えて頂き朝、服に着替えて頂くように支援している。ご家族と外出する際にその場に似合う服を着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節によって行事食や郷土料理を提供したり、おやつや飲み物を利用者様に選んでいただく機会も設けている。丼物や麺類が苦手な方には代替食を用意するなど、利用者様に合わせて柔軟に対応するように心がけている。野菜の皮むきや盛り付け、食器洗いなども手伝っていただいている。	地元の食材を取り入れながら、3食共職員が手作りし、季節の行事食も提供している。また、おやつや朴葉寿司作りは利用者と職員が一緒に行い、好みの具材や味付けについて話しながら、楽しい時間を過ごしている。下ごしらえや盛り付け、食器洗い等は出来る人が行っているが、希望者も多く、職員が役割分担をしながら、利用者の自信に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎回記録に残し、把握できるようにしている。夏場や持病に糖尿病や高血圧などがある方には出来る範囲での制限を行ったり、低栄養の方に医師から処方された経腸栄養剤を摂取していただくなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼・夕食後に口腔ケアを行っている。任意で月に一度づつ、歯科医の往診・歯科衛生士の口腔ケアを受け、指導も行ってもらっている。自己で歯磨きができる方は見守りを、介助が必要な方には口腔ケア介助をしている。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケア業務予定・チェック表に個々の排泄や介助の有無を記録し、一日の排泄リズムが一目で分かる様にしている。個人の排泄量や便の状態を把握し、食事の形状、薬の調節を行っている。独自のシステムを使用した記録からグラフ分析を行い、個人の排泄パターンを把握することも出来る。	立位保持が出来る利用者に声かけし、トイレへ誘導している。こまめな支援で失禁回数が減り、笑顔に結びついた利用者もある。オムツ・紙パンツ・パッド等は、排泄パターン、排泄量、時間帯で見直しを行い、夜間は、センサーで確認しトイレへ誘導している。利用者の状態によっては、ポータブルトイレを設置する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から水分摂取量を記録し、10時のおやつ時に牛乳を飲んでもらっている。排便を促すお茶を飲んでくれる方もいる。排便状況は記録で把握できるようにしている。又、看護師や主治医に相談をして個々に薬を処方してもらうこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯を午前にするか午後にするかなど、出来るだけ利用者様の希望に添うようにしている。また、介護者の見守りを嫌がる方には最小限の安否確認を行う、車椅子の方は浴室用車椅子を使い足湯をしながら入浴を楽しんで頂いている。	利用者の希望に応じて、週2～3回の入浴を支援している。好みのシャンプーを持ち込むこともでき、肌の弱い人に配慮した石けんを使用するなど、個々の状態や希望に沿った支援をしている。同姓介助の希望にも応じている。季節のゆず湯や菖蒲湯等で、利用者が季節が感じられるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、家事手伝い等や軽い体操・散歩などに誘い、体を動かすよう促している。居室でテレビを観たり本を読んだりされ過ごす方もみえる。利用者様が居室にて横になる場合は夜眠れるように時間を決めて横になってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが確認出来るようにフロアに処方箋ファイルを置いている。薬の追加や変更があった場合、医療管理記録や連絡ノートに記入している。利用者様一人一人の薬棚を作り、看護師が管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴、嗜好品を把握し、ケアに活かすようにしている。日頃の家事手伝いや、外へのゴミ捨て、居室や廊下を掃除機がけ等一人ひとりの役割や日課を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策として思うように外出支援が出来ず辛い日々が続くが、対策を取った上で近隣の散歩をしたり、施設内で行う行事を充実させたりと少しでも利用者様のストレスが軽減できるように努めている。	感染症対策をした上で、近隣を散歩をしながら、景色を眺めたり、無人の野菜販売所を見学するなど、外気に触れられるよう工夫している。今は、外出を制限せざるを得ない状況にあるため、ホーム内で出来るミニ運動会を企画し、玉入れや魚釣り、選手宣誓やメダル贈呈等、利用者が楽しめるような様々な工夫をしながら、開催している。	

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族に説明をし、紛失しても問題がないと判断された額を入れた財布を所持している方もみえる。生活で使用した金銭は、家族に領収書を郵送し、内容と金額が伝わるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人から手紙が届いた場合、ご本人に渡したり、利用者様が書いた手紙を代わりに投函することもある。電話がかかってきた時はご本人に取り次いだりしている。(ご家族以外の方はご家族に了承を得てから取り次いでいる。)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1フロアに3ヶ所トイレがあり利用者様の使い分けができています。リビングの掃除は利用者様と一緒にしている。リビングにはテーブルに季節の花を飾ったり、セタやクリスマス、雛人形等、その季節に合わせた飾り付けを利用者様と共に行っている。エアコン、ガスストーブを使い一年を通して快適な温度に保っている。	昨年同様、感染予防対策として、共用空間・居室への立ち入りはせず、タブレットにて写真や動画等の確認となった。空気清浄機や加湿器、ウイルス除去装置等で、感染症対策を徹底しながら、快適な空調管理に努めている。大きな窓から見える夕暮れ風景は、絵のように美しく、管理者の自慢の一つである。庭に咲いた花はリビングや洗面所に飾り、利用者が季節を感じながら、穏やかに暮らせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル席は、利用者様同士の相性や関係性を配慮して配置している。食事の際は利用者様に配慮しスタッフが円滑に会話、食事が進むように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みの家具や日用品、思い出の品などを持参して頂く事をお勧めしている。普段使っている化粧箱や趣味の作品などを持ってきたり、ご家族の写真を飾っている方もみえる。居室にテレビを設置し、見たい番組をくつろいでご覧になる方もみえる。	居室には、エアコンやクローゼットが備え付けられている。ベッドやタンス等の馴染みの家具を持ち込み、家族写真やタペストリーを飾ったり、読書好きな利用者はライト付きのベッドで、好きな本を読むなど、利用者それぞれが、自分らしく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりづらい方のために扉に大きな字で「トイレ」と赤字で貼って一目で分かる様にしている。また、転倒のリスクがある方の居室にセンサーを設置したり、入浴の際、浴槽に入りやすくするため新たに手すりを増やすなど行った。		